

## 開会にあたって

鳥取県中学校体育連盟  
ソフトテニス専門部部長  
南部町立法勝寺中学校  
船越 路央

「球拾いを、忠実に本気でやれ。」

テニス界だけでなく、多くのスポーツ界で口にされるこの言葉の深さ、そして「本気」と「一生懸命」は似て非なる理念だということを最近教えていただきました。「一生懸命」という言葉は確かに尊いですが、結果よりも「一杯いっぱい頑張っている私を見て欲しい。」という意識が働き、まだまだ余力を残してしまうこともあるそうです。逆に「本気」には、自分の限界を堂々とさらし逃げ場を求めない潔さという真意が含まれているそうです。

サーブの速度が 120 キロ超の球を、ラケットの芯で打ち、さらに相手コートの決めたい場所に、ぴったりと返球できることは、一朝一夕では不可能です。しかし、「日常」の一つ一つの積み重ねを大切にしている選手は、必ずや可能になるといいます。

この地に集っているのは、一年間を通して道具やコートの準備、そして片付け、コートの水撒きなどという仕事や雑用を価値ある訓練だと認識し、「忍耐と辛抱の試練」なのだと言い聞かせながら日々努力してきた人、自分に与えられた責務だと捉え、喜んで実行する心がある人だと思います。日常の一見つまらない練習こそ「本気」でやったことが本番の試合に、形として現れるのです。

コロナ禍という条件下でも各学校が創意工夫しながら練習したことが存分に発揮できる場を無事にご提供できたことを、鳥取県中学校総体に集う関係者一同で、まず喜びたいと思います。同時に各家庭のご努力とご協力の賜物であると感謝申し上げます。

選手の皆さんは、今までの練習を信じ、自分自身を信じ、恐れることなく無心で白球を追いかけてください。